

夢窓幼稚園通信第67号

2016年 1月 18日

寒い朝でも おひさまの光が射し込んでくると、のどかで あたたかな陽だまりに、子どもたちの遊びが ひとつ ふたつ …と、生まれてきます。さくらの木の枝先には もう沢山のつぼみがあって、おひさまの光を浴びひとつひとつがうれしそうに微笑んでいるみたいです。目の前の風景に 思いを向けて眺めていると、すでにして4月の庭や子どもたちの姿が そこにあるように現れてくるようです。花に人が声をかけるのと かけないのでは、まったくその元気が違ってくるとい話を聞いたことがあります。人が「想う」ということは、私たち自身が考えている以上にすごいことなのだと思います。

話は少し変わりますが、ルドルフ・シュタイナーはヴァルトルフ学校を開校するに当り教師をきる人たちに向けて連続講座を持ちました。そのまとめとして、教師としての生き方の4箇条を示すのですが、その一番はじめは、ひとつひとつのものごとに対して「意識的」であることとしました。誰かに、そしてものや出来事に対するときに、意識的になって向き合わないといけないというのです。「何となく」とか「誰かが言うから」「みんなが そうだから」「それが常識だから」ではダメなのですね。ぼーとしていたり、根拠を自分の外の何かにまかせるのではなく、しっかり心に向けて対したり、受けとめたりして欲しいということなのだと思います。同じように見えることでも「いつものように」ではなく、ひとつひとつが一回限りのこととして真剣に向き合うことを求めている ……意識的にとは、「真心得」ということなのかもしれません。

子どもたちが生きていくとき、世の中のあらゆることが何らかの形で彼らと結びついているのですから、親を含めた教育者が意識的であろうとすることは、「真心得ひとつひとつの時を生きる」という生き方のモデルを示すことでもあるでしょう。

しかし この意識的に生きるというのは、かなり難しいんですよ。実際がんばろうと思っても、ふと気がついたら、ぼーと無意識に生きてしまっている自分がいることが多いです。

それでも 少しでも意識的になれたら！と、この三十数年 心掛けていることがいくつかあります。その内の2つだけ ご紹介させて下さい。

・大切なことを話すときには、少しゆっくりと話すこと

・大切な言葉に出会ったら 少し大きな字で書きとめたり、できることなら大きな字で書かれたものを読むこと

ひとつめは、ゆっくり話すことで、話そうと思っていることに見合った言葉を少しでも ていねいに探す時間が持てると思うからです。

ふたつめは 契約書の約款や取引規定などの細かな字のぎょりど
違い、大きな字で書かれたものは、いくらかでもかみしめるようにして
読めそうな気がするからです。

最近 真名の会の案内に、クリスマスのときに浮かんできた 2つの
思いについて書かせてもらいました。

「自分のこととして」と 「できる限りのことを」です。

何がかは分かりませんが、今 きりぎりの時代であるように思えて
仕方がないのです。

私たちがどう生きたいのかに対して、誰かに委ねてはいけぬのだと
心の深くで叫んでいる声があるのです。

自分のこととして、できる限りのことを！ です。

その大切なひとつが、先ず「日本国憲法」を読んでみようとすることだと
私には思えるのです。

読んでも、時代の課題について自分の考えは ちっともまとまらない
かもしれません。何をしたらいいのか道が結局見つけられ
ないかもしれません。

それでも、想いを寄せ、真心をこめて、自分のこととして向き合うことは
できるでしょう。きっと何かが そこからいつの日か生まれてくるに違
いありません。

社会の未来に関わることです。

子どもたちの未来につながる切実なことです。

「改正に賛成か反対かを判断する前に、私にとって大切な「私の
日本国憲法」と思えることができればいいな！」と思っています。

明日の文庫の里みちさんの詩の横に、私が読んでいる大きな字で
書かれている「日本国憲法」の本を置かせてもらおうと思っています。
よかったら どうぞ 開いて見て下さい！

園長 升光 泰雄